

済生会総合研究所報

第5号



令和7年3月

社会福祉法人 恩賜 済生会

済生会保健・医療・福祉総合研究所

目次

巻頭言

研究所報第5号の発刊に当たって ----1

濟生会保健・医療・福祉総合研究所 所長 炭谷 茂

研究部門活動成果

濟生会病院におけるコロナ前、コロナ期、コロナ後の急性期入院患者の動向 ----3

山口 直人 松原 了

調査結果からみる地域での暮らしを支える医療と福祉の連携 ----16

原田 奈津子

高齢者施設での医薬品に関する支援 ― 濟生会福祉施設会と薬剤師会の連携 ― ----27

植松 和子 曾我部 直美 田中 嘉一 菅野 浩 柴崎 智行
則武 有美 田畠 襄 山口 直人 松原 了

濟生会が独自に「SWS:臨床研修指導医のためのワークショップ」を開催する意義 ----41

船崎 俊一

人材開発部門 活動記録

初期研修医合同セミナー ----57

医師臨床研修管理担当者研修会 ----58

濟生会全国次世代指導者研修 ----59

臨床研修指導医のためのワークショップ ----60

医療技術者(PT・OT・ST)マネジメント研修会 ----61

薬剤部(科・局)長研修会 ----62

臨床研修指導医のためのワークショップ(SWS) ----63

令和6年度 総研研究部門 研究業績 ----64

巻頭言 研究所報第5号の発刊に当たって

済生会保健・医療・福祉総合研究所
所長 炭谷 茂

ここに済生会総合研究所報第5号を発刊できますことは大変嬉しく思います。

済生会総研は、平成29年2月25日に発足し、8年余が経過しました。

この間新型コロナウイルス感染が平成2年2月に国内で始まり、その後猛威を振るい、日本の政治や行政では新型コロナ対策が最大の課題でした。本研究所でも重点的に研究を行ってきましたが、本号においても新型コロナによる入院患者の動向分析に関する研究論文を掲載しています。

また、済生会の薬剤師会が済生会の福祉施設会と連携し取り組んでいる高齢者施設における薬物治療、服薬等に関する研究論文を掲載しています。福祉施設においてはほとんど、医療面の体制の不備から医薬品に関して問題が発生しがちで、対策が十分になされていないのが現状です。そこでこの研究論文は、医療と福祉の両部門を有する済生会の特色を生かした研究であると思います。

新型コロナの収束後、国民の受療行動は大きく変化するとともに、人口減少、超高齢社会の到来、人手不足、人件費や諸物価の高騰など、これまで経験したことのない状況が生じています。これに対して現行の診療報酬制度や介護報酬制度は、人件費や物価の上昇に適切に対応できていませんので、昨年の医療機関や民間介護事業者の倒産・廃業件数が過去最高を記録したように、医療機関や福祉施設の経営は、大変厳しさが増えています。私は、「済生会が戦後最大の経営危機にある」と思います。

これらに対する対策は、前例のないものになりますので、英知を結集し、解を求めての研究が必須であります。まさに本研究所は、この役割を率先して担っていきたいと思います。

今回第5号は、本研究所の研究者が最近まとめた研究論文ではありますが、いずれも現場での経験を踏まえた実践的な内容になっています。済生会のみならず多くの関係者の参考になれば幸いです。